

離島での暮らしを守る振興計画

離島は、人口の減少が長期に亘り、高齢化が急速に進展しており他の地域に比べ自然及び社会的条件は厳しい状況にあります。

離島の主な産業は漁業等ですが、魚類や海産物の出荷は年々減少傾向で、経年の変化が大きく取る漁業のみでは将来的に問題があると考えられます。

島民の生活の安定や福祉の向上を図ためには、経済活動を向上させ、居住者の増加及び人口の減少の防止及び定住の促進を図り、離島の自立的発展を促進する施策が必要です。

このためには、医療の確保（受診・出産）、介護サービス、高齢者の福祉、教育・文化の振興（子供の修学機会の確保）、観光の開発、地域間の交流の促進、自然環境の保全、再生可能エネルギーの利用、災害を防除す施設等の整備が必要となります。

私は毎年離島に行く機会ありますが、離島の殆どは連絡船の便数が少なく、また、最終便の時間が早く島内での滞在時間が永く取れません。帰りの時間を気にしながら過ごすことになり不便を感じます。この様なことでは、観光、交流の促進などの経済活動等は期待できません。

そこで、これら離島の現況の諸問題や経済問題等を改善できるいろいろな施策について、離島での暮らしを守る振興計画を提案しました。

[連絡船の増便]

離島連絡船の増便と最終便の遅延化による利便性の向上や、船舶の大型化による欠航回数を減少させ、運賃を低廉化することで、通勤・通学・買い物・観光など交流の促進が図られる。また、連絡船の乗降は、干満潮位の差が大きくても安全で容易にできる船舶接岸施設の改善を行う。

[離島後継者の確保]

無医島では、夜間や大時化（しけ）時など乳幼児の急病不安の解消を図るため、新生児の3歳頃まで連絡船航路本土に住居を低廉で提供し、母子とも安心した生活の確保を図り、その後再び島に戻れる様にする。この様な施策を行うことで離島の漁業後継者が確保できる。

[空き家の利用]

島内の空き家を利用した「コンドミニウム」で、長期滞在型の観光客等を誘致し、空き家を有効活用することにより収益を上げることを検討し実施する。

[漁業の活性化]

大型海水プールを設置し魚介類を生かし、各種活魚類をコンスタントに出荷できるようにする。活魚は豊漁時に確保しておき、悪天候などで出漁しない時にも観光客等に活魚を通年提供できるようにする。

[磯釣り磯遊びの体験]

島内の磯へ容易に行ける遊歩道を設け散策できるようにする。釣りに適している場所は、磯釣公園にして磯釣りや磯遊びを家族等で容易に体験できる場を設け観光資源に活用する。

[特産品の販売]

島の連絡船発着所には、島の駅を設けて海産物など島の特産品などの販売を行うとともに、島の観光案内、行祭事、気象など情報の発信を行う。

[多様な発電での有効利用]

太陽光、風力発電のほか海流の有る場所には潮流発電を行い常時の電力の供給を図り、島内の施設への有効利用を図る。電力を有効に活用する施設は、海水の淡水化、温水等を利用した養殖、野菜果実類の栽培、温泉プールなど地元島民及び観光客に活用する。

[安全・安心の船舶の係留]

漁港入口開口部及び防波堤の高波の防御対策の促進、防波堤上の暴風対策の強化を図ることにより、暴風時の漁船の安全・安心できる停泊係留場所の整備を図る。

[有害鳥獣の駆除]

離島に泳いで渡って来たイノシシなど有害鳥獣を駆除し、農作物の被害の削減で生産性の向上を図る。

[本土駐車場整備と低廉化]

離島への連絡船発着所付近の公営駐車料金は、地方都市にも関わらず1泊2日になると高額になる。離島航路の利用対象者用の駐車場を整備し、離島で宿泊した場合の駐車料金は安価にして観光・交流等が盛んに出来るようにする。